

なぜ？

どうして？

木酢液

キクノールの力



Q 種をキクノールにつけると良いというのはなぜ？

A キクノールの浸透力で種をふやかし発芽を良くするので。



沈めるのではなくしめじで木。(半日位)がたい種は(ホレ草等)一昼夜つけて下さい。

Q 思ったように野菜が育たないのは どうして？

A 家庭菜園ですと、どうしても同じような種類の野菜を作りがちです。そうすると、その野菜にいたずらする病害虫が増える傾向があります。そのため、キクノールの酸をエサにする有用菌を増やしてあげることで、土壌の菌バランスを整えます。



Q 野菜を収穫した後は、どの位の肥料を入れてあげれば良いの？



A 例えは、土根を抜いたあと、足りなくなった肥料分、土根が吸えきれなかった分があります。残肥を考えて、その後の野菜の生育状態を見ながら、キクノールを散布して、土に負担をかけないように効率良く吸収させてあげ、足りない分だけ補充してあげましょう。



Q バラが何となく元気がない。キクノールと液肥、どちらを先に使えば良い？

A 地植え・鉢植え共に、根の状態を観察し、虫等の被害を調べてから、キクノールをしっかりかけて根の張りやすい状態にして、肥料の吸える新しい根を失に出してあげることが大事ですネ！

Q キクノールとキトサンと何がどう違って、どういう効果があるの？

A キクノールは有機酸が主成分で、これをエサにして有用菌が増えていきます。キトサンは醸造酢とカニ殻が原料の低分子キトサン液です。吸収が早いので、土の表面に散布すると、キトサンがゆっくりと土に長くどまり、土の中の放線菌を増やしていきます。キクノールとキトサンを一諸に使用することが良い結果になるのですネ。



Q バラって肥料とか沢山入れなくちゃならないようですが、どのタイミングでどの位あげれば良いの？

A 当社では、冬休眠中で剪定後の寒肥と、夏の花の後、軽い剪定後のお返し肥の2回を基本としております。馬ふん、ぼよう土、グアノ等をたっぷり株元に敷いてあげます。あとは、週に一度位の割合で、キクノールとキトサンを散布して土のバランスを整えていけば、ローメンテナンスで楽しめます！

